

清水港湾事務所におけるSDGsの取組について



私ども清水港湾事務所では、以下の取組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、清水港・田子の浦港・御前崎港・下田港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



多種多様な貨物を世界へ！

清水港湾事務所では、清水港新興津地区において、取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応するため、国際物流ターミナルの整備を行っています。船舶が荷役を行う岸壁は、南海トラフ地震等の大規模地震災害に備え安定的な物流機能を確保するため、耐震強化岸壁として整備しています。また、静岡県が設置した官民連携の協議会にて、新興津コンテナターミナルにリーファープラグを整備するなど、清水港を拠点とした農産物の輸出促進を目的とした取組も進められています。2022年9月には、ハイブリット型や電動型の遠隔操作RTG等の運用が計画されており、作業環境の改善、生産性の向上、CO2削減を図る次世代高規格コンテナターミナルを目指した取組が行われています。



新興津地区



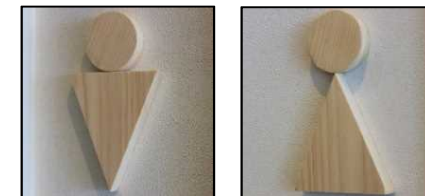
だれでも親しみやすい『みなと』を目指して！

静岡県内には、『みなとオアシス』7箇所、『釣り文化振興モデル港』3箇所が登録されており、観光振興を通じた地方創生への取組が進められています。このうち『みなとオアシス』の構成施設には、賑わいの施設のほか、津波避難タワー等の防災施設も登録されており、災害支援の役割も担っています。また、近年では視覚障害者に配慮し静岡市で生産されたオクシズ材を使用した『立体ピクト』の設置を進めており、地域の人々の憩いの場となるような施設を目指しています。【2021年度以降の目標】

みなとオアシス啓発活動のべ回数:2021年度1回 → 2030年度49回



【日の出埠頭岸壁の釣り開放】
年6回ほど開放し、100名程度



【男女別立体ピクト】

男性用女性用トイレの入口を示す
※立体ピクトとは
一般的なピクトサインに厚みを加え、
触れることで情報収集を補助するもの



『ブルーカーボン』を活用した環境に優しい『みなと』を目指して！

くびしゅう

御前崎港にある久々生海岸には、県のレッドデータブックに準絶滅危惧種と定められるコアマモやアマモ等が自生・群生しており、貴重なCO2吸収源となっています。清水港湾事務所では、2021年に御前崎港の開港50周年を記念して、アマモ等の『ブルーカーボン』の活用による環境に優しいみなとづくりに向け、くびしゅう海岸の清掃活動を実施しました。当日は2トントラック45台分のゴミを撤去し、清掃後にマダイの稚魚を放流しました。アマモを守り、『ブルーカーボン』を活用することで、環境に優しいみなと作りを目指し、今後も活動を継続していきます。【目標】のべ開催数:2022年度1回 → 2030年度10回



マダイの稚魚放流



くびしゅう

久々生海岸清掃の様子

三河港湾事務所におけるSDGsの取組について



私ども三河港湾事務所では、以下の取組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、三河港・衣浦港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



物流と環境を守り、地域産業を支える港湾整備

三河港湾事務所では、「三河港神野地区」と「衣浦港武豊北ふ頭地区」において取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応するため、国際物流ターミナルを整備しています。

現在、「三河港神野地区」で整備している防波堤では、スリット(開口部)を設置した透過型防波堤構造を採用し、天然あさがり分布する六条潟への影響に配慮した港湾整備を進めています。また、全国で15箇所ある開発保全航路のうちの1航路である「中山水道航路」の管理・保全を行っており、三河港に入港する大型船舶等の航行の安全を確保し、三遠南信地域の産業を支えています。



三河港



衣浦港



『ごみを拾う530のまち』を目指して！530運動への取組

豊橋市では循環型社会の構築を目指し、市民・事業者・行政が一体となって530運動に取り組んでいます。三河港湾事務所では、1年に2回の春と秋に分けて530運動に参加しています。一人一人の『ゴミを捨てない』という意識を醸成することで、みなと付近の環境保全や、みなとの利用促進に繋がると考え、今後も530運動の実施や周知を行っていきます。



530運動の様子



回収したゴミの分別

【2021年度以降の目標】のべ参加者数:2021年度32人 → 2030年度300人



きれいな三河湾を未来へ繋ぐ！環境学習の実施

三河港湾事務所では、地域のNPO法人の方々と連携し、地元の子供達に海の環境や干潟の役割等を理解してもらうことを目的として、干潟での生き物調査や海の水質調査等の環境学習を行っています。

環境学習を通して、子供達に環境を大切に作る心を育てて頂けるよう、今後も活動を続けていきます。



干潟での生き物調査の様子



海の水質調査の授業風景

【2021年度以降の目標】のべ参加者数:2021年度210人 → 2030年度2,000人

名古屋港湾事務所におけるSDGsの取組について

私ども名古屋港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、名古屋港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



名古屋港のパワーアップ



名古屋港にはコンテナ取扱貨物量の増加や船舶の大型化に伴い、既存のコンテナターミナルの能力不足やモータープールの分散による非効率な荷役などの問題があります。名古屋港湾事務所では、名古屋港が抱えるこのような問題を解消するために様々な事業を実施しています。

具体的には、コンテナ取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応した新たな岸壁の整備や既存岸壁の改良、物流の効率化による国際競争力の維持・強化を図ることを目的とした港全体の再編を行っています。

また、大規模地震災害に備え、安定的な物流機能を確保するために耐震強化岸壁として整備しています。大型船舶が安全に入出港できるよう、名古屋港湾事務所が所有している浚渫兼油回収船『清龍丸』にて海底土砂の撤去を行っています。



コンテナ船の荷役の様子



清龍丸



ゴミ回収で海をキレイに



海面に浮遊するゴミや流木は航行船舶の支障となります。また、船舶の衝突事故等による大量の油流出は、海洋環境や生態系に大きな影響を与えます。

名古屋港湾事務所が所有している海洋環境整備船「白龍」は、伊勢湾内の海洋ゴミや油の回収作業を行うとともに、環境保全・再生のための水質調査を実施しています。



白龍

【2021年度以降の目標】

海洋ゴミののべ回収量: 2021年度180m³ → 2030年度2,260m³



名古屋港を見て学ぼう!



名古屋港湾事務所が行っている工事や名古屋港の果たす役割、社会資本整備の重要性等について、広く知っていただくために、見学会を行っています。見学会は、主に小学生以上の方へ向けた教育や研修を対象としており、名古屋港の概要説明と船舶に乗船して名古屋港の港内見学を行っています。

名古屋港について、より多くの方々に理解を深めてもらえるよう、名古屋港湾事務所では今後も見学会を開催します。



見学会の様子

【2021年度以降の目標】

のべ見学者数: 2021年度46人 → 2030年度2,046人

四日市港湾事務所におけるSDGsの取組について



私ども四日市港湾事務所では、以下の取組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、四日市港・津松阪港の港湾・海岸整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



地域産業の発展と災害時の経済活動を守る！

四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区において、コンテナ貨物量の増加・船舶の大型化に対応するため、国際物流ターミナルを整備しています。また、南海トラフ地震等の大規模地震災害に備え、安定的な物流機能を確保するため、耐震強化岸壁としての役割も担っています。岸壁整備に必要な地盤改良に使用する砂は、河川事業と連携し、河道掘削から発生する砂を活用することで資源の効率的な利用にも取り組んでいます。



ターミナル完成予想写真



河川事業と連携し
地盤改良材を調達

地盤改良で再利用される砂



高潮や津波から生命と財産を守る！

津松阪港海岸において、自然災害から堤防背後の生命と財産を守るため、伊勢湾台風を契機に整備された既存海岸堤防の老朽化対策・地震対策を実施しています。現在は、津地区の栗真工区、阿漕浦・御殿場工区において、工事を進めています。



堤防整備前



堤防整備後



阿漕浦・御殿場工区整備後



地球に優しいみなとを目指して！

四日市港におけるカーボンニュートラルポートの実現に向け、官民一体となった協議会を設立し、検討を進めています。

また、霞ヶ浦北ふ頭地区で整備中のコンテナターミナル(W81)において、荷役機械のハイブリッド化や遠隔操作、IoTを活用したゲート処理の迅速化等を取り入れたAIコンテナターミナルの実現に向けて、地元港湾利用者と連携して取組を進めています。



ターミナルの
生産性向上へ

ゲート処理の迅速化

荷役機械の遠隔操作化

AIコンテナターミナルの検討



荷役機械のハイブリッド化

【目標】 ハイブリッド化された荷役機械等の導入による温室効果ガスの排出削減

名古屋港湾空港技術調査事務所におけるSDGsの取組について



私ども名古屋港湾空港技術調査事務所では、以下の取組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾・海岸整備および港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



知ろう！伊勢湾の環境

海域環境の改善・持続に向け、環境に関する情報の共有化及び調査研究を推進させるための情報基盤として伊勢湾環境データベースを構築しています。

現在は、「誰も」が「公平」かつ「容易」に利用できるように、SDGsを観点とした環境学習コンテンツの検討やスマートフォンから水質定点観測データだけでなく、風向及び風速データも閲覧できるよう機能改良を進めています。

【目標】年間HP閲覧者数:2021年度 20,000人 → 2030年度 30,000人



伊勢湾環境データベースHP



水質定点観測スマートフォンサイト用 QRコード



学ぼう！沿岸海洋の防災

小学生を対象に総合学習時間を活用した防災教育の支援に取り組んでいます。事務所に併設している実験施設を利用した体験学習などを通じ、防災意識の啓発や沿岸防災の理解促進に繋げています。また、中部地方整備局が進める事業及び港湾・海岸施設の重要性を理解していただくために、一般の方からの施設見学を随時受け付けています。【2022年以降の目標】のべ参加者数:2022年度 0人 → 2030年度 3,500人

※現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般受付を停止しています。再開については、当所HPにてお知らせいたします。

HP: <https://www.meigi.pa.cbr.mlit.go.jp/>



小学生を対象とした防災学習の様子



施設見学の様子

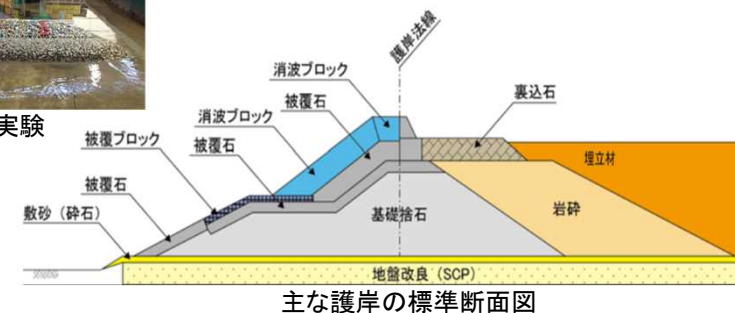


造ろう！気候変動に対応した港湾施設

近年、気候変動の影響と思われる高潮・高波等による災害の頻発化及び激甚化が進んでいます。これを受け、予測されている海面上昇も睨みながら、中部地方整備局にて施設整備を進めている護岸に対して、水理模型実験で越波量等を確認し、施設設計へ反映させています。また、中部地方整備局内の港湾施設において、今後、地球温暖化に伴う更なる潮位変動が生じた際も、対応できる構造となるよう検討を進めています。



水理模型実験



主な護岸の標準断面図